

十和田商工会議所

機関名	十和田商工会議所		
所在地	青森県十和田市西二番町4-11		
電話番号	0176-24-1111		
地域概要	(1)管内人口 6万3千人	(2)管内商店街数 13商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 4商店街 (内法人格 4)	(2)会員数 206商店	
	(3)空き店舗率 19% (H13年4月調べ)	(4)大型店空き店舗 2店	
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成12年度 空き店舗対策事業 チャレンジショップ、情報提供、イベント
 総事業費 20,528千円

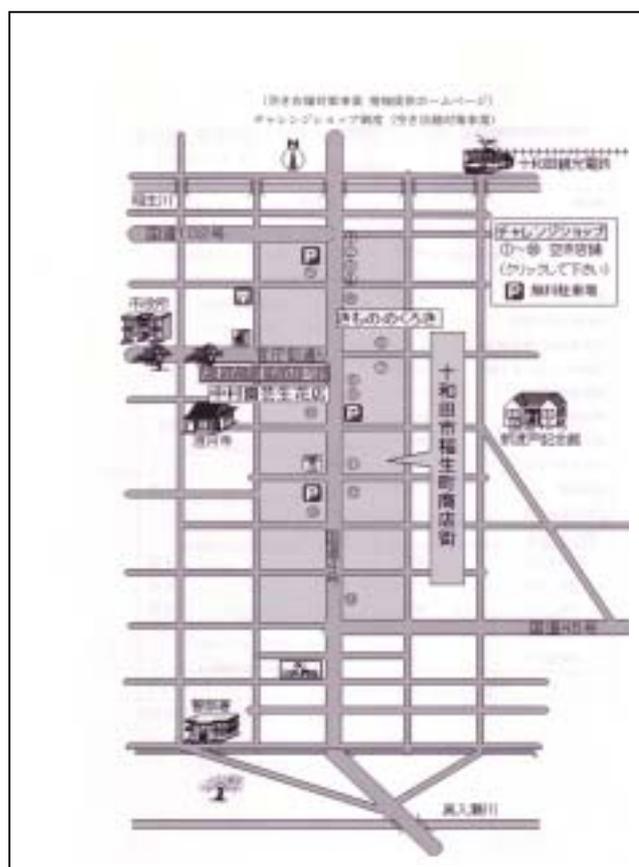
【事業実施内容】

1.背景

十和田市は、商店数減少、商店店舗密度の継続的低下に伴い、中心街区の消費購買力吸収力が年々低下してきた。当中心街区では、ここ10年以上、商店街振興組合・同連合会が中心となって、市や商工会議所の支援の下、ハード、ソフト、ハートづくりの面で、様々な近代化策・活性化策を展開し、一定の成果を示してきたが、停滞状況を打破するまでには至らなかった。

そこで、平成11年度は、中心商店街区では、“街再生のきっかけづくり”としての短期的施策として、空き店舗対策を含む商店活性化事業を展開した。これは、中心街区に点在する空き店舗の具体的・多様な活用によって商店街区への集誘客を図りながら、その結果を分析・評価して、中長期的な街づくりに役立たせるための事業であった。

12年度に実施した当事業は、11年度事業の成果を確実なものとするため、また、かつての商店街核店舗で現在空き店舗となっている施設を有効活用し、賑わいを創出するため、前年度に引き続きチャレンジショップ事業を展開した。情報事業では、前年度の空き店舗情報



提供、インターネット体験コーナーに加えて、十和田版「まちの駅」を通じて、地場産品の陳列・紹介・販売や、新開発の郷土料理の飲食コーナー等のサービス機能などを付加した。

2. 事業内容

- (1) 期 間 平成 12 年 10 月 5 日～平成 13 年 3 月 31 日
- (2) 対象商店街区 南、中央、六丁目、七・八丁目の 4 商店街振興組合街区
- (3) 事業実施場所 十和田松木屋ビル 1 階フロア 利用店舗面積...991 m²
- (4) 実施内容・方法等

1) 事業実施の組織と運営

事業実施にあたっては、「空き店舗対策委員会」と、この下部組織として「作業部会」を設置し、事業計画を組み遂行した。

2) チャレンジショップ事業

- 募集期間 平成 12 年 10 月 17 日～23 日(7 日間)
- 募集店舗数 15 店舗 (1 店舗当たり 10～15 坪を予定)
- 募集地区範囲 十和田市並びに周辺市町村(2 市 3 町)
- 募集広報周知要領 チラシ作成新聞折込広報 42,300 枚
- 応募者数 15 名 (十和田市内 11 名、市域外 4 名)
- 選考出店者数 12 店舗(12 名) 応募者の選定は、作業部会において選考
- 店舗賃借料は無料(会議所が負担)とし入店営業に伴う共益経費は出店者の自己負担。
(坪当り共益費 3,000 円とし、当該貸店舗所有者に振込み払い)

業種	店舗名	取扱品目	出店者居住地
1.小売業	ギャラリーかめおか	美術工芸品	五戸町
2.小売業	クラージュ	婦人装飾・雑貨	十和田市
3.小売業	やおやさん	果物・地場産販売	十和田市
4.小売業	お茶とコーヒー竹ヶ原	お茶とコーヒー	十和田市
5.小売業	お菓子のみやきん	和洋菓子	七戸町
6.小売業	(有)すぎさわ	寝具・婦人服	十和田市
7.小売業	北のギフト館	ギフトセット	十和田市
8.小売業	靴工房	靴修理	十和田市
9.小売業	(株)ヒガシ靴店	靴販売	八戸市
10.小売業	アロマサロン クエスト	健康器具	十和田市
11.小売業	千葉商会	1,000円均一品販売	青森市
12.小売業	艸花園	造花店	東京都
13.小売業	(株)蓬田グリーン開発	生花店	青森市
14.小売業	文化堂	骨董、古民具	藤崎町

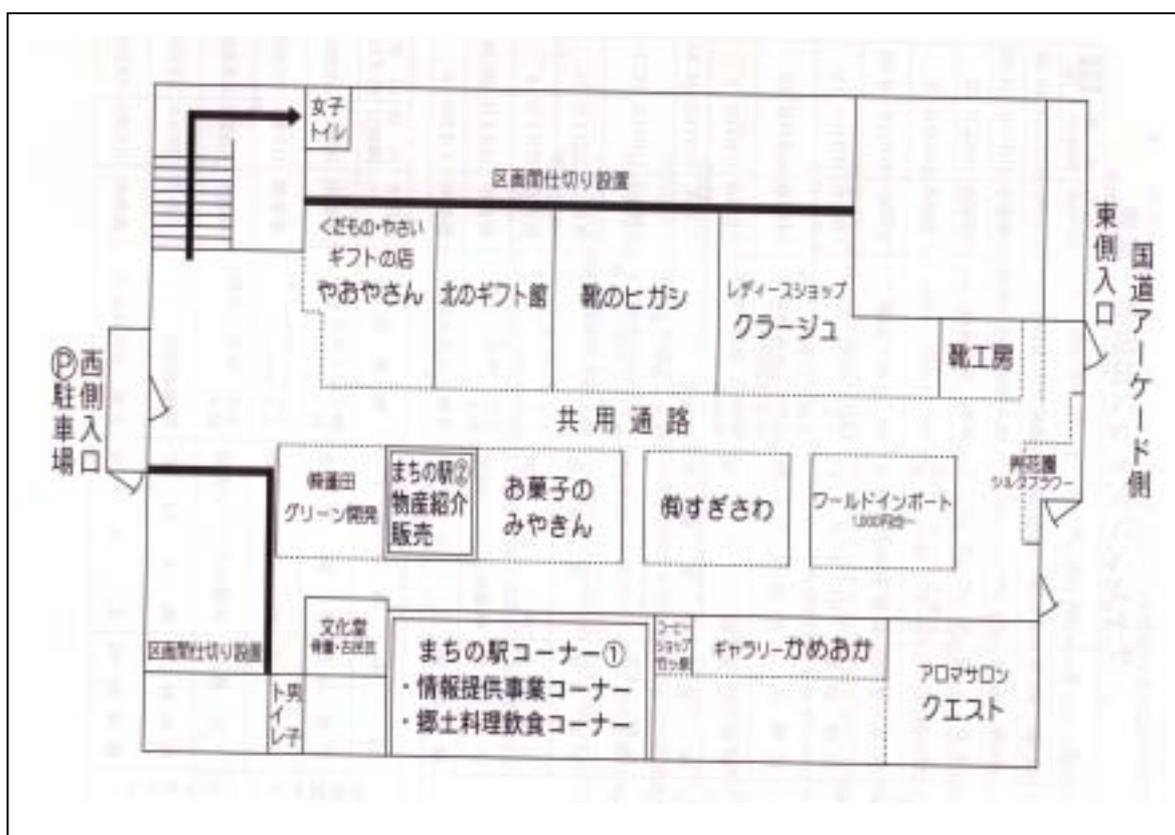
「とわだまの駅」オープニング時に出店したチャレンジショップ数は10店(前頁表内1～10)となり、出店辞退者向け用に用意の売場スペースに空きが生じることとなったため、店内イメージの減退を防ぐ等観点から、当面、当空きスペースを出店期間概ね1ヶ月以内とする短期チャレンジショップ向け用スペース(前頁表内11～14)とした。なお、この4店は事業終了時迄入店営業した。



まの駅 正面入口



まの駅 店内



まの駅 店内レイアウト

3) 情報提供事業 (まちの駅コーナー設置運営事業)

インターネット無料体験コーナー

- ・開設期間 平成 12 年 11 月 11 日 ~ 平成 13 年 3 月 27 日
- ・設置パソコン台数 一台 (プリンタ付)
- ・期間中の総利用者数 200 名
- 空き店舗情報の提供 中心商店街区の空き店舗情報の提供発信
- 市内観光物産等紹介・情報提供
- 市内観光物産等紹介パンフレット、公民館等での催事パンフレットや当市中心商店街区における情報誌「まちづくり情報」の提供等を専用コーナー棚を設置し、常設発信。

むらおこし開発品郷土料理紹介販売及び料飲コーナー

- ・提供メニュー料理 おとめガーリック
- ・一品販売価格 200 円(3コ入り)
- ・料飲提供実施期間(11月11日~3月27日)
- ・総売上金額 823 食 164,600 円 料飲総客数 397 名
- 地場物産展示紹介陳列・販売コーナーの設置
- 開館・管理方法
- ・開館時間帯 午前 10 時 ~ 午後 6 時
- ・管理方法

事業期間中は、元旦の休日及び毎週水曜日(平成 12 年 12 月 ~ 平成 13 年 3 月までに毎月 3 回程度)を休日とし、施設については会議所職員が行い、まちの駅コーナーについてはアルバイト 4 名による勤務ローテーションにより営業。

4) イベント事業...実施回数 3 回

【第 1 回目】「ウルトラ 3 大ヒーローショー」

- ・実施期日 平成 12 年 11 月 11 日(日)
- ・事業内容 ショー開催回数 2 回
- ・参集客数 560 名

【第 2 回目】「飛び出せ街へ」

- ・実施期日 平成 13 年 2 月 3 日(土) ~ 4 日(日)
- ・事業内容 ア)もちつき イ)動物着ぐるみと遊ぼう 等実施

【第 3 回目】「百獣戦隊ガオレンジャーショー」

- ・実施期日 平成 13 年 3 月 11 日(日)
- ・事業内容 ア) ショー開催回数 2 回
イ) 出演キャラクターとの握手会並びに写真撮影回
ウ) 参集幼児へのキャラクター小物グッズプレゼント
- ・参集客数 1,400 名

5) 調査事業

空き店舗補完調査(中心商店街区空き店舗補完調査)

- ・実施時期 平成12年12月6日～13年1月19日

中心4商店街区新規発生空き店舗調査

消費者意識調査

- ・調査日 平成12年12月25日～30日

- ・調査対象者 歩行者通行者

チャレンジショップ営業内容等調査

- ・調査日 平成13年3月5日～10日

- ・調査対象者 チャレンジショップ出店者14名



好評だった市内物産コーナー



「飛び出せまち」へ動物着ぐるみと祝舞

【 効 果 】

(1) チャレンジショップ

今回の目的は、現在空き店舗となっている中心街区大型店ビルの有効活用通じて地域住民・消費者に生活利便性を提供し、中心部に賑わいを取り戻し、併せて街再生のきっかけ・手掛かりを得ることであった。これらの目的は概ね達成されたと言える。チャレンジショップ出店者にとっては、売上高等は計画を下回るものであって、満足できる結果とはいえないものの、反面、「消費者意識調査」では利用者にとってはチャレンジショップに対する認知度は高く、有益とする意見も多数を占めた。たとえ所期の売上げ予想に満たなくとも、多くの消費者に歓迎されたと思われる。

(2) まちの駅コーナー開設

まちの駅コーナーは、チャレンジショップ併設のため、コーナーだけの集客力を計ることは難しいが、インターネット体験者数、おとめガーリック売上状況、地場産品展示・販売コーナー売上状況などから見て、文化・教育啓蒙助長やコミュニティ形成の観点から、開設意義があったと言える。

とわだまちの駅入店客数 (総計 22,239人、実開館1日当たり 185人)

(3) イベント

当事業は、親子連れの集誘客を目的としてのイベントであったが、「ウルトラ3大ヒーローショー」、「飛び出せ街へ」、「百獣戦隊ガオレンジャー」のいずれも、商店街の賑わい創出と商店街認知度向上にかなりの効果があったと思われる。特に「飛び出せ街へ」は、まちの駅店頭だけでなく、商店街をステージとして回遊する移動型イベントだったこともあり、住民と商店経営者双方から歓迎された。

【課題・反省点】

(1) チャレンジショップ事業

1) 出店者営業内容調査では、「暖房不備」、「内装面の汚れ」、「エントランスのイメージ」、「照明不足」などがハード面の問題点として指摘されたが、これらは事業者にとっただけでなく、消費者にとっても些か気になる点であった。

2) 業種構成・店舗配置面では、「生鮮部門不足」、「休息所が貧弱」、「食事処が無い」との指摘があった。

3) サービス面の問題・課題

同一店舗・同一フロアで営業するのであれば、営業姿勢の“すりあわせ”は必要不可欠であり、このことが確認できたことは、今後の課題であると同時に、“成果”とも言える。

(2) “まちの駅”コーナーとイベント事業

“まちの駅”コーナーは、インターネット体験コーナーを除いて、若者向けのサービスがやや不足していた。また、イベント事業も、どちらかと言えば乳幼児から小学生くらいをターゲットとしており、中高校生から20代前半に対するサービスが不足していた。中心商店街活性化イベントとしては、各年代に配慮したソフトの組立が課題と言える。

【教訓】

(1) 多層階大型店跡ビル1階を活用開店するには、現行の建築基準法、消防法等の関係法規をクリアする為の建物・設備改修が必要となり、この為の改修等投資が必要となること。

(2) チャレンジショップであって補助事業終了後も自主営業継続した者への市の家賃の一部補助の実施(単年度(13年度)のみ)が、チャレンジショップの定着促進に施策効果として有効であった。

(3) 上で述べた諸課題・諸問題のうち、準備に多くの時間をかけることが出来れば、予め回避できた事柄も少なくない。この種の事業における実施決定の早期化が望まれる。

【関連URL】

十和田商工会議所

<http://www.towada.or.jp/>

【 そ の 他 】

十和田市当局の支援施策として、チャレンジショップで、当補助事業終了後も営業を続ける自主営業継続者の定着促進を支援することを目的に、支払家賃への助成を実施（単年度限り助成。月額支払家賃額 15 万円を上限としてこの 2 分の 1 を 6 ヶ月分の助成）。